

令和2年度第1回徳島県周産期医療協議会 議事録

1 日 時

令和3年2月22日（月）午後7時から午後8時40分まで

2 方 法

オンライン会議（Zoom）

3 出席者

（1）委員（15名）【五十音順・敬称略】

今川 玲代，苛原 稔（会長），加地 剛，亀井 香，近藤 秀治，斎藤 誠一郎
佐藤 純子，田山 正伸，千葉 真依子，中川 竜二，春名 充，福井 理仁，
船戸 豊子，前川 正彦，宮崎 達志

（2）事務局等

健康づくり課、医療政策課広域医療室、各保健所等

4 会議次第

（1）開会

（2）議事

- ①乳児・新生児死亡率の状況とその対策について
- ②令和2年度周産期医療協議会専門部会報告について
 - ・母子保健専門部会報告について
 - ・妊産婦メンタルケア部会報告について
 - ・災害対策部会報告について
- ③令和2年度 HTLV-1 研修会実施報告について
- ④その他

（3）閉会

5 議事の概要

（1）乳児・新生児死亡の状況とその対策について

（事務局）令和元年人口動態統計（確定数）から現状報告及び母子保健の水準と対策について説明【資料1】

（2）令和2年度周産期医療協議会専門部会報告について

○母子保健専門部会より

（加地部会長）令和2年度事業実施結果及び令和3年度事業計画について説明【資料2】

（会長）7名の死亡者、先天異常の2名と23週の早産については、対策を講ずることが難しいと思うが、4番目の双胎については適切な使用をお願いするのがいいと思う。

原因が不明な症例については、警察が関与しているので何とも言えないところだが、県外で生まれ、搬送された新生児は、何処に搬送されたのか。

(加地部会長) 徳島県の医療は全く関与しておらず、出生届が徳島県で出されたので、こちらでのカウントとなる。

(会長) 対策が困難なケースということですね。添い寝で亡くなったのは、突然死と解釈しているのか、それとも事件性があるのか。

(加地部会長) 事件性はおそらくないであろうと思われる。

(会長) 5番目の慢性肺疾患、これはRSウイルスが関連しているか。

(加地部会長) 早産が影響したと思う。

(会長) 今回の報告より、きちんと対応しなければいけないのは、リトドリンの問題ではないか。産科セミナーや周産期検討など、様々な機会を設けて、小児科医、産婦人科医に対して適切な情報提供と蘇生法講習の受講が重要だと思うので、推進して頂くようお願いしたい。

また、プレコンセプションヘルスケアの重要性も強力に進めて行かなくてはならないと思う。推進のためにグループを作ってもいいとも思う。あと、ワクチン等についても重要視していかないといけないと思う。いずれも講演会で伝えていくことが大切なので、HTLV-1の講演会等にも入れ込んで頂きたいと思う。

なお、警察が関与するようなケースにも取り組んでいきたいと思う。

○妊産婦メンタルケア部会より

(春名部会長) 令和2年度事業実施結果及び令和3年度事業計画について説明【資料3】

(会長) 症例検討が行われているが、市町村として精神科への相談や専門的治療へのつなぐタイミングを判断しにくいようだが、これについて意見はあるか。

(春名部会長) 緊急時に関しては県立中央病院でホットラインができるが、緊急以外で、心療内科への受診を迷う人は、不安があれば分娩した産科医療機関に連絡をして、そこから心療内科に紹介してもらうことも考えている。

(会長) サインを見逃さず取り上げていく必要がある。

また、以前講演会では、市町村間での情報が伝わらなかった千葉県虐待事例について、触れられていたが、何かいい方法はないか。

(春名部会長) 周産期のスクリーニングで、情報提供様式がある。各関係機関が連絡する手順も矢印で作成しているので、この通り情報提供していくと、漏れが少なくなると思う。

(会長) できるだけピックアップして頂けるといいと思う。

コロナの状況で妊婦さんが孤立していると思う。できるだけ、産婦人科、小児科など触れ合う診療科が手をのばさないといけないと思っている。

・災害対策部会より

(前川部会長) 令和2年度事業実施結果及び令和3年度事業計画について説明【資料4】

(会長) 最近、和歌山でも小さな地震が続いている。皆に知っていて欲しい内容だと思う。マニュアルにある衛星電話は使えるのか。

(前川部会長) 周産期関係の災害訓練には使っていないが、県立中央病院の訓練では使っている。

(会長) 情報が入ってこないのが困る。避難所の立ち上げも大事になってくる。

(3) 令和2年度HTLV-1研修会実施報告について

(事務局) 令和2年度HTLV-1研修会実施報告について説明【資料5】

(会長) 研修会では、Covid19の知見についても講義いただいた。徳島県では、現在妊婦さんのCovid19は出ていないが、これからの可能性もあるため、妊婦さんにおけるワクチンについては共通の認識を持っていた方がいいと思う。

(4) その他

・徳島県不安を抱える妊婦への分娩前新型コロナウイルス感染症対策事業、徳島県こうのとり応援事業について

(事務局) 今年度、令和2年の9月より、不安を抱える妊婦への分娩前コロナウイルス検査を実施している。検査は令和3年度も引き続き、不安を抱える妊婦さんの検査を継続させて頂くにあたり、予算の獲得に努めている。

こうのとり応援事業、不妊治療・不育症検査費用助成事業について説明【参考資料11】

(会長) 不妊治療・不育症検査等については、管政権になってから力をいれ将来的に治療の保険適用化を検討している。今後プレコンセプションケアも含めて、いろいろな形で周知していきたい。

・徳島県における乳幼児RSウイルス重症化予防対策について

(委員等) 徳島県における乳幼児RSウイルス重症化予防対策について説明【参考資料6】

(会長) コロナウイルスの影響で、手洗い・うがいなど(予防に)いい影響を与えているようだが、九州地方では増えてきたので、対応を考えておきたいと思う。

ポイントの1点は、昨年踏襲をする。2点目は、3月から6月の定点あたりの報告数

が 1.0 を超える場合に検討するということだが、ハイリスク児というのはどういうものを指すのか。

(委員等) 対症療法を行っている 1 歳児未満や、6 ヶ月未満の月齢の若い乳児は重症化のリスクが高いと考えて頂ければと思う。

(会長) ハイリスク児の場合には、小児科において投与を検討して頂けるということでしょうか。

(委員等) R S ウイルスに関しては、開始時期を逃さないのが大事なので、流行状況を見極めて開始時期を決めるということによい。

(会長) 周産期協議会では委員のご提案に賛成でよろしいか。

県内で、半年くらいかけて Covid19 のワクチンが接種されていくと思う。

そうなると、手洗いや 3 密を避けなくなる可能性があり、結果的に（感染が）増えてくる可能性が十分考えられますので、（対策を）考えておかなければならないと思います。

(委員等) 県としては、2021 年の方針で対応させて頂くということ、小児科の先生方に周知させて頂いていいでしょうか。

(会長) 是非お願いしたい。

・新生児マススクリーニング検査について

(委員等) 先天性代謝異常等検査事業（新生児マススクリーニング）における「説明・同意書の記載内容の標準化」に関するご協力のお願いについて説明等

【資料 7・8・9・10】

(事務局) 委員から、検討の場としての会議の開催についてご発案いただいたので、設けさせていただき、出席いただく方の推薦についてもご相談させて頂きたい。

現在、検体の保存については、一般社団法人大阪市環境保健協会に業務委託しており、3 年契約で検査を実施している。契約上は 1 年間保存になっているが、保管場所に余裕があるので 5 年間程度は保管しているが、古い検体から随時処分していると把握している。

調査の協力については、適当な検体の保管方法が示されていないことから、検査業者からも何年間なら対応可能という明確な回答は頂けていない。

本日のご意見を頂き、保管機関が変わると契約の内容も変わってくる。

全国的なことと思うので、他の自治体等の状況が分かれば是非、教えて頂きたい。

(会長) 検討の機会を設けることとしてはどうか。定例化するか否かは内容を見て検討し、内容を詰めた上で周産期協議会にかけて、了承をもらう手順としてはどうか。

(会長) 問題になるのは、保存している検体を研究に使う可能性があるという点。

二つ問題があり、一つは同意書の中に、(研究に)使っていいかという文言を追記する必要があること。二つ目は、研究となれば各施設の倫理委員会にかけないと、遺伝が関与しているため問題になる可能性があると思う。

これらを含めて協議会で検討するというのでどうか。

・妊産婦にかかる新型コロナウイルスワクチン接種について

(委員等) 徳島県の医療従事者に対してのワクチン接種が3月上旬から始まる。

医療従事者の中にも妊婦さんはいるため、12週未満の臨界期の妊婦さんや授乳中の方に対する接種について先生方に、お示し頂けたらと思う。

(会長) ワクチンについては、日本産科婦人科学会、日本産婦人科感染症学会ともに、本人が希望をすれば十分な説明の上、投与は問題ないと提案しており、それに従ってやりたいと思っている。授乳中については問題ないと思うが、臨界期について、先生方がどう考えておられるか伺いたい。

(委員等) 日本産婦人科学会、感染症学会で12週未満はやらないほうがいいということ。妊婦さんに使う場合は十分な説明をすると書いてある。また、授乳期は生ワクチンではないので、問題ないであろうとのこと。基本は十分説明して妊婦さんが納得されたら構わないという方向ではないか。

(会長) まずは臨界期を超えた人達にということで。日本産婦人科学会、感染症学会の基準を守りましょうとお伝えしたいと思います。

また、必要であれば徳島県の周産期医療協議会としてのワクチン接種の見解について、医療機関に示した方が良ければ文書を出したいと思う。